

中高年と仕事

五十三歳になって、仕事を探すようになるとは夢にも思わなかった。上場企業に就職し、会社のために一身を投げうってここまで来た。まさか、上層部の背任行為で業績悪化、競合会社の傘下に入るとは。

吸収合併で、僕の席はなくなった。リストラだよ。女房は、パートに出て、息子は大学院を断念した。

しかし、嘆いてばかりもいられない。友人の経営する日ノ出町の立体駐車場を誘導業務をやり始めた。

会社を離れて六か月、業績を上げることがばかり考え、自分に磨きをかけることをして来なかったことに気づいたよ。

それにつけても、女は強いなあ。女房にハッパをかけられて、今、パソコン教室に通っている。遊びだが、もしかして役に立つかも知れんからなあ。君もあんまり働きすぎないように忠告しておく。

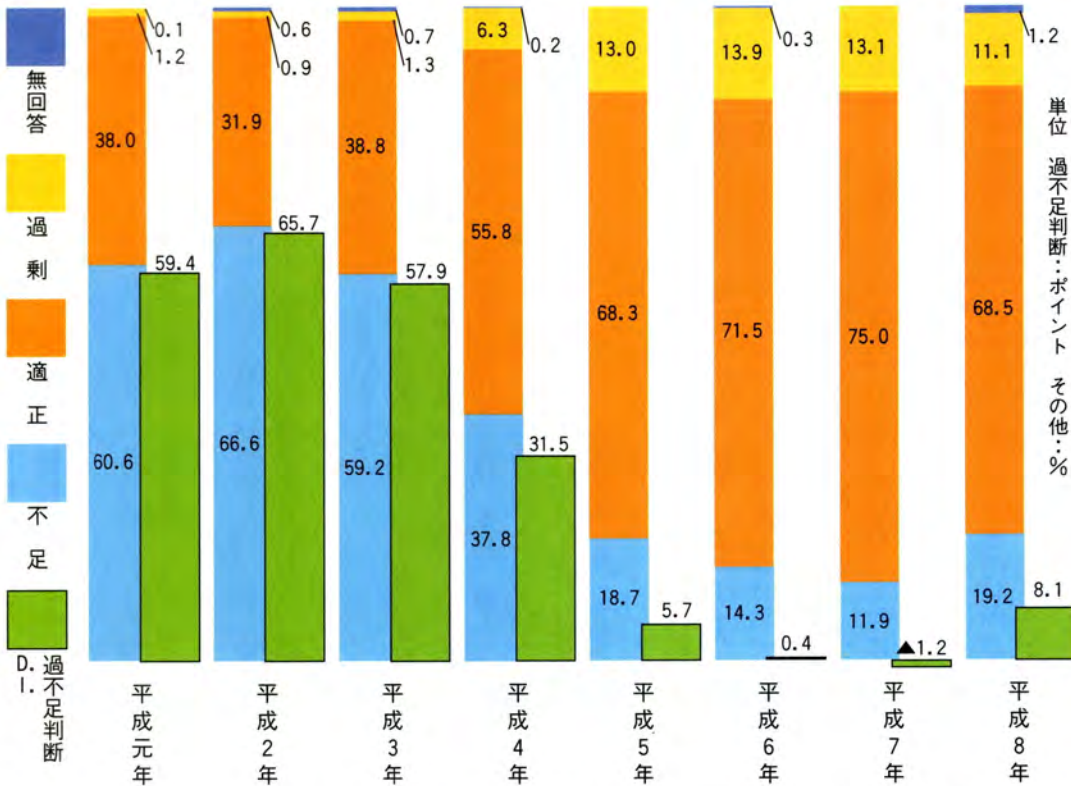
会社は所詮、会社だ。いらなくなったらポイだ。今の若者は、すでにそれを知っているよ。いろいろあるが、もうひとふんばり、というところかな。

(中区 S・Bさん 五十三歳)



正社員の過不足判断の推移

「横浜市雇用動向調査」(平成8年度・横浜市)



・市内事業所の「正社員の過不足感」は、景気・業績判断と連動して推移しており、バブル崩壊後、企業が従業員の過剰感を持っていることがうかがわれる。

※DI=不足とする事業所の割合-過剰とする事業所の割合

毎日、看病に来てもらっていて、手紙を書くというのも変な話だが、入院してからちょっとした心境の変化があったと思ってくれ。

毎年、健診で引っかかっていたし、もともと血圧が高いほうだから、良くないとは思っていたんだが、とにかくなんとか仕事をさばかないと、と思いつつ、結局は入院する羽目になってしまった。身から出たサビと言え

ばそれまでだが。
入院当初は、取引先に電話したり、幸司に電話で怒鳴ったりしてたけど、一週間ほどして、鶴見の山本社長から「幸司さん、良くやってるよ。あんたも安心だね」って見舞いがてらに言われた時に、なんかホッとして、しばらくここで休養するかって感じになった。

そうすると、いろんなことが思い出されてきた。特にこの病院の窓からは海が見えるから、余計に感傷的になっているのかも知れないが、気にしないで読んでくれ。

いつだったか、加藤病院から電話もらったのを覚えているだろう。俺がたまたま電話に出て、「何の用ですか」って聞いたときの先生のびっくりしたような対応は、今でも覚えている。それはそうだろうなあ。家族の一人が気胸で入院したことを知らない父親なんていうのは、父親失格なんだろう。

また、いつかみんな飲んで飲んだ時に、元波さんに言われた「奥さんいなくなったら、バタツと死んじゃうタイプだよ、飼ってる犬より先。だって、何もできないものね」という言葉も、そうかも知れない、という気がしている。

そんなことを思い出すと、自分がこれまで仕事一筋でやって来たことについて、少しは反省しないといけないかなという気がしている。今さら遅過ぎると言われるかも知れないが、これが今度の手紙の趣旨だと思っ

らっている。
(神奈川県 E・Aさん 五十四歳)

ライフステージ別喜び・生きがい(仕事・商売の順位)

【横浜市民意識調査】(平成8年度・横浜市)

(単位: %)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|------|------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 1位 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2位 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3位 | | 25.7 | | | | | | | | | | | | |
| 4位 | | | 27.8 | 34.7 | 35.5 | 26.5 | 30.3 | 32.8 | 25.7 | | | | | |
| 5位 | 8.7 | | | 10.5 | | | | | | | 11.9 | 12.2 | 9.3 | |
| | 学校教育期 | 独身 | 夫婦のみ | 家族形成期 | 家族成長前期 | 家族成長後期 | 家族成熟期 | 向老期(計) | 向老期(1) | 向老期(2) | 老齢期(計) | 老齢期(1) | 老齢期(2) | |

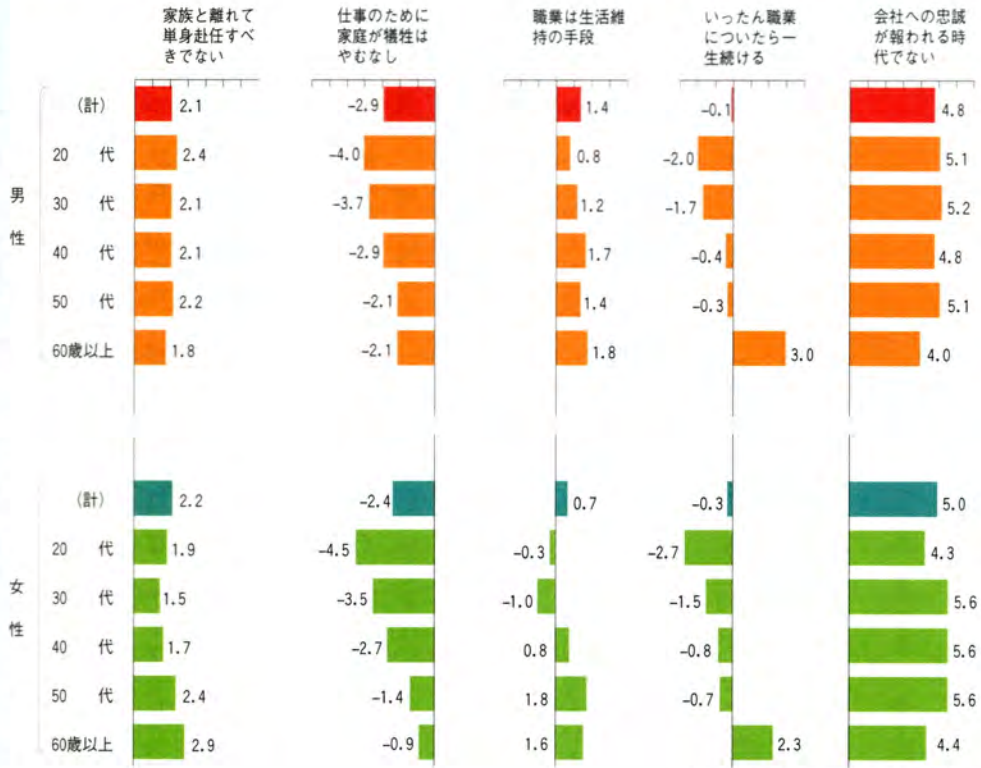
・喜び・生きがいとしての「仕事・商売」が最も高い順位(三位)となるのは、独身区分であった。その他の区分では家族形成期と老齢期が五位、それ以外の区分では四位となっている。

中高年と仕事

仕事・職場に対する考え方 (年齢別)

〔横浜市民意識調査〕(平成8年度・横浜市)

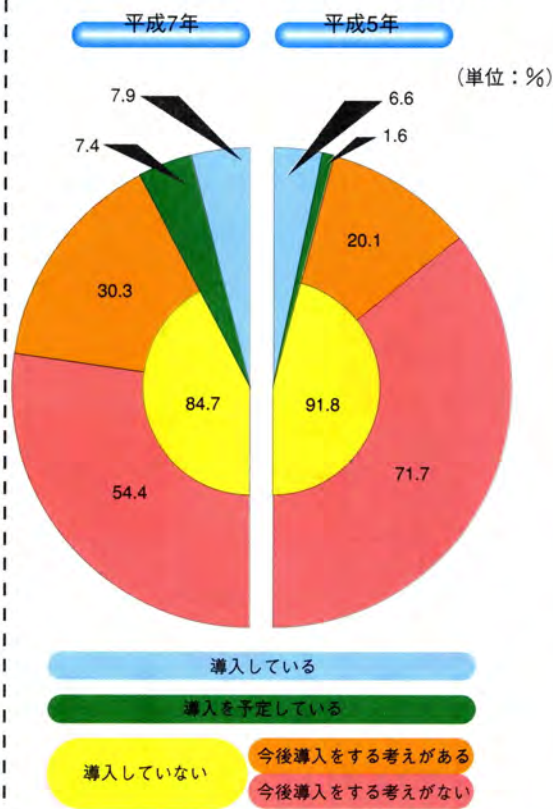
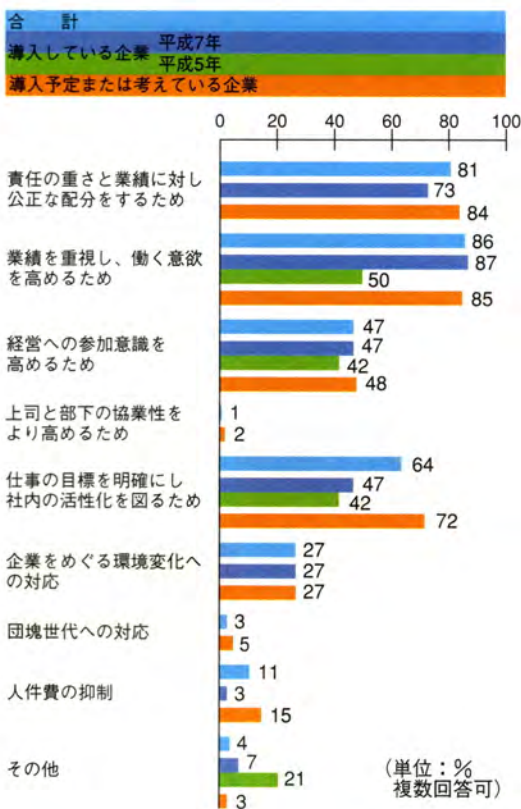
・仕事・職場に対する考え方については、「会社への忠誠心が報われる時代ではない」は、全世代を通して、かなり多くの人に同意されているが、特に女性
の三十〜五十歳代でスコアが高い。
一方、「仕事のために家族が犠牲はやむなし」は年代が下がるほど否定傾向が
強くなっている。



肯定度スコアの算出については p 10 を参照

年俸制の導入状況とその理由

〔雇用の見直し等に関する調査〕(平成7年・日本人事行政研究所)



・年俸制を導入または予定している企業は、平成七年で一五・四%だが、平成五年と比較すると倍増している。
・導入理由は「責任の重さと業績に対して公平な配分をするため」八一・〇%、「業績を重視し、働く意欲を高めるため」八六・〇%が高い割合となっている。

定年後の仕事

真美子さま

もくれん、蘇芳など色濃い花が咲き始めました。

お元氣のことと存じます。個展のご案内ありがとうございます。ダイナミックな画風、学生時代から変わりませんね。

この二月末で、ちよつと早めですが退社いたしました。仕事の区切りがよかったので……。三月にパリに出かけ、おいしいものの食べ歩き、美術館・画廊の観て歩きを堪能してきました。

美大時代になかなか夢を、三十五年間働き続けた後、やつと実現させることができました。結婚して趣味で絵を描き、時々個展をするあなたや、画廊に勤めたあと、自分で画廊の経営をするようになった由美さん、美術出版社勤務の陽子さん。それぞれが学んだことを生かして職業にしていることを少しねたましく思いながら、畑違いの営業の仕事も続け、結婚もせずここまで来ました。

長い職業生活のうちには思いがけない出来事もありましたが、幸いなことに健康に恵まれ、元氣に暮らして来ました。これからは、母が長い間たずさわってきた、地域の自然食品の共同購入の会の事務の仕事をしませう。

収入は、パートの賃金の時間給程度になりますが、地域密着型の仲間づくり、職住接近、自由時間の増大と、いいことづくめです。

好きな絵を描く時間もたっぷりできそうです。そのうち、元町あたりのおしゃれな画廊であなたと二人展など夢見ています。

比較的ゆったりとした町並みだったこのあたりも、小さな区画の新築住宅が増えました。若い世代の住人との交流も、この会を通じてできそうです。

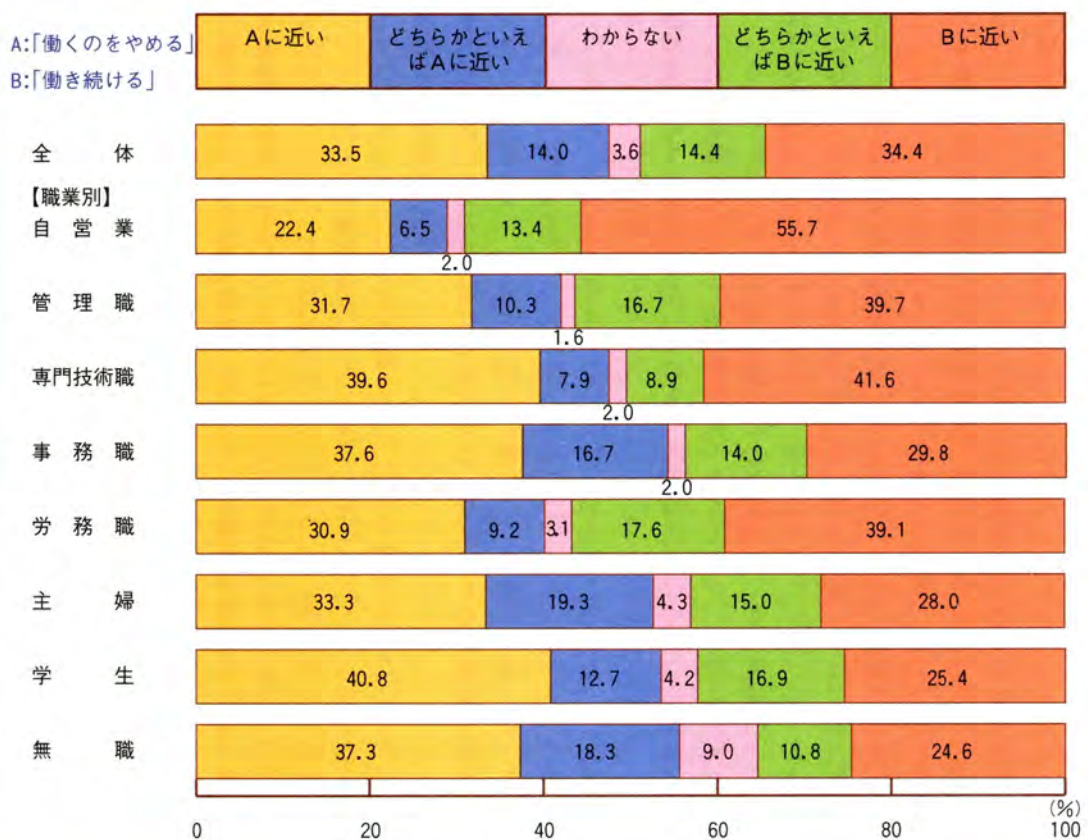
退社に関わるいろいろな手続きなどでペースが決まらず、まだ忙しがっています。個展には必ずうかがいます。お会いできるとうれしく存じます。ではまた。

(神奈川県 K・Nさん 五十七歳)

定年後の過ごし方 (職業別)

[横浜市民意識調査] (平成8年度・横浜市)

・定年後の過ごし方を職業別に見ると、「働くのをやめる」は無職(五五・六%)、学生(五三・五%)、主婦(五二・七%)などが多い。「働き続ける」は自営業が六九・一%で七割近くの数値となり、目立つ結果を示している。



定年後の仕事

インタビュー



池谷清次郎さん

「シルバー人材センター」に登録
65歳 栄区在住

現役時代は日中合弁会社の総経理として、台湾で勤務したこともある池谷さん。半年前に定年を迎え、悠々自適の生活を送るつもりだったが、「シルバー人材センター」に登録して、清掃の仕事を始めた。

■六十五歳だと年金ももらえますし、老後に備えてなにかの貯えもして来ましたから、「今さら働かなくても」というのがワイフの本音のようです。私自身も、最初はそのつもりでいたんです。六十五歳まで現役でやって来ましたから、もう人生やったという気持ちはあるんですよ。ところが、しばらくのんびり暮らすうちに、だんだんむなしくなってきたんです。「俺は何しているのかなあ」と、やはり寂しさがヒューッと吹き抜けていく感じなんです。それで、「じゃあ職安に行ってみよう」と、ともかく腰を上げたんです。

■しかし、私が歩いてきた道というのは、もう若い人がいくらでもいるわけです。私は総経理の仕事もしていましたが、もともとは技術畑の人間で、そういう人間は大学を出て十年も経つと、だ

いたいが課長になり、十五年も経てば部長になるんですよ。そうすると、シルバー世代に「また来てください」という会社はまずないですね。

■それで、現役時代は現役時代だと割り切って、「シルバー人材センター」に登録して、清掃の仕事を始めました。身体を動かす仕事だから、健康にもいいんです。それに、いざやってみると、清掃業は高齢者の仕事として有望だなということに気がつきました。まだ始めてから三か月にしかありませんが、いざそれは指導者の資格を取ることと考えています。ビルクリーニング技士とか、ビル設備管理士とか、受験資格を得るには、就業実績が必要ですから、まずはそれを得なければなりません。もしかしたら、これが今後のライフワークになるかもしれません。ですから、「健康維持」「お小遣い稼ぎ」、そして「新たなライフワーク」と、三つが具備されたわけですから、ここでの仕事は苦になりません。

■会社人間だった現役時代と比べると、ワイフとの関係はやはり変わってきました。昔はもっぱら「俺について来い」で、ワイフのほうも「強気なお父さんだから何を言ってもダメだ」という感じでしたが、今は「お手々つないで」という感じですね。二人で漫才みたいなことを言い合って、キョーキョー笑っていますよ。

■地域に対する考え方というのも、現役時代とはずいぶん変わりました。勧誘もあって、老人会に入ったんですが、あそこに住んでいるご主人だとか、その奥さんだとか言われても、最初のうちはまるで顔がわかりませんでした。そういうこともあって、よけいにむなしさが強くきたんじゃないかと思います。今は、老人会のサークルで中国語の講師をやってくださいとか、地域の人もだんだんに親しくさせてもらっています。やはり、ここで骨を埋めるんだという意識はありますから、今住んでいるところで、残された人生を全うしていこうと思えば、地域の人のつながりを大切にしていききたいと思います。